

学びの広場 2018

4月から道徳が「特別の教科 道徳」になります。今月は道徳教育について、町の取り組みなどを紹介します。

【問い合わせ】教育課 学校教育係 ☎(83)7023

「道徳」から「特別の教科 道徳」へ

平成27年3月に小・中学校の学習指導要領などが一部改正され、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として実施されることになりました。小学校では平成30年、中学校では平成31年に全面実施になります。松田町では、県教育委員会より平成28年度から2年間、「特別の教科 道徳」についての研究委託を受け、小・中学校で連携して研究に取り組んできました。

なぜ「特別の教科 道徳」に

「道徳」がなぜ「特別の教科 道徳」として実施されるのでしょうか。その背景には、社会問題となつていく「いじめ問題」があります。国立教育政策研究所の「いじめ追跡調査2013-2015」では、「特定の児童生徒に偏ることなく、多くの児童生徒が、いじめに巻き込まれている実態がある」と指摘されています。

いじめはどの学校でも、どの子どもにも起こり得ることを認識して学校・地域が一体となつて取り組んでいく必要があります。

松田町の取り組み

このよう な実態から、松田町では、「特別の教科 道徳」についての研究を深めるためにできることは何かを考え、「松田町小中連携道徳教育研究会」を立ち上げ、各小中学校の推進教諭を中心に先進的な取り組みや実践報告に学び、実践、情報の共有を図ってきました。



松田中学校の研究協議

「特別の教科 道徳」の実施に備えて

これまでの「道徳授業」は、どちらかと言えば読み物の登場人物の気持ちを読み取ることに終始する授業（いわゆる「読み物道徳」）であつたり、望ましいと思うことを発言したり、書いたりして終わる授業が多かつたといわれています。しかし、新たに導入される「特別の教科 道徳」の授業では、現実の問題に対応できる資質や能力を育むためには、多様な事象に対して、普段から「自分ならどうするのか」と、自身に問いかけ、自身と対話

しながら他人事ではなく、自分自身のこととして考える力を育んでいくことを大切にしています。

そこで、答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の児童生徒が、自分自身の問題と捉え、真正面から向き合う「考え、議論する道徳」の実現を図るために、研究授業や、大学教授による講演会などの取り組みを行ってきました。

このこと以外にも、道徳における取り組みとして行ってきたことはたくさんあります。

大学講師による講演



松田小学校の研究授業



「特別の授業 道徳」は、4月から小学校で全面实施となり、児童に教科書も配布されます。

年間指導計画の作成や評価の問題など、まだまだ取り組み課題はたくさんあります。

「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の委託事業は、今年度で終わります。しかし、研究は、さらに続きます。これからも道徳教育の充実を図り、心の醸成にまい進していきます。

スコット先生&テイス先生のミニ英会話

Health 健康編

「I have a...」で色々な表現ができます。応用してみましょう！



How are you? お元気？

Not so good. (調子が)あまり良くない。

Oh no! What's wrong? あら！どうしたの？

I have a cold. 私は風邪を引いている。



I have a...

cold
cough
fever
headache
stomach ache
sore throat
runny nose
bloody nose
toothache

風邪
咳
熱
頭が痛い
お腹が痛い
のどが痛い
鼻水が出る
鼻血
歯痛

松田文化財探訪

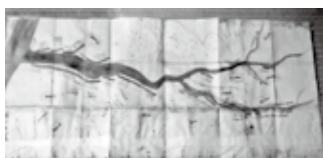
矢倉沢往還24

文化財保護委員 草門 隆

「川音川の酒匂川への合流について」

(1月号より続く)

川音川を、三角土手付近で酒匂川に合流させたため、「上茶屋と下茶屋」ならびに「町屋と仲町屋」に分断されました。しかし、この両川の合流時期について『足柄上郡誌』では、江戸時代中期の元文(1736-40)年間で「青山街道本道争い」の原因ともあります。一方、『酒匂川の沿革と氾濫の歴史』(著者・酒井氏)には、「江戸時代初期の藩主・大久保忠世、忠隣の酒匂川統合計画によるものとみるべき」とあります。



宝永6(1709)年・川音川流域被害状況絵図 縦42×横72cm

は、「江戸時代初期の藩主・大久保忠世、忠隣の酒匂川統合計画によるものとみるべき」とあります。

筆者としては、今まで語られていない、次の2点を以て江戸時代初期と考えます。

1点目は、神山の旧家が所蔵する宝永6(1709)年6月の絵図(写真)が証拠です。これは、宝永の噴火による、川音川流域被害状況を精緻に記したもので、酒匂川との合流箇所を大川落合とあります。この大川とは、正確には、西山(松田庶子)を源とする西川と思われるが、時として川

音川がこの西川を衝いて隣の酒匂川に奔流する様が「十文字」の語源ともいわれています。2点目は、この合流という大事業の背景をみると、「江戸時代初期の慶長元(1596)年6月に、信甲関東洪水で、この夏の夏秋度々大水。百年以来無比類」と史書や災害誌にあります。

従って、この大災害復旧・復興に合わせて米増産・新田開発を目的として、両川の合流を行ったものと推測できますので、江戸時代初期説に説得力があると思います。

因みに『松田土木100年誌』によりみると、川音川の平均河床勾配は、1/70。

一方、酒匂川は県内の河床勾配は約1/130で、県境(小山辺り)〜新大口橋は約1/90です。

この両川の勾配差について、側道又は土手を自転車走行すると、約1.5倍以上の負荷の差が体感でき、我が国トップクラスの急流「暴れ川の酒匂川」より、更にきつい「鉄砲水の川音川」が実感できます。

南足柄市の郷土史家・内田清氏曰く「和田河原の押切という地名は、川音川の水勢によるもの」だそうす。

次回は、偉大な人物の矢倉沢往還通行にまつわる残念な話をご紹介します。